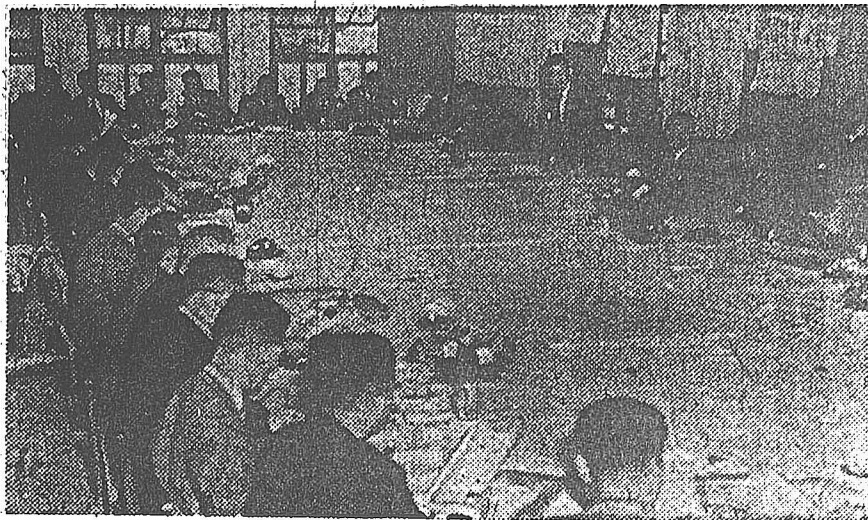


衆院調査団 工場側を追及

熊大との対立捨てよ

「浄化装置」なぜ遅れた

二日から水俣市に乗り込んだ衆議院水俣病調査団（団長松田鉄蔵氏）の一行十七人は、三日早朝から新日窒水俣工場の八幡地区、百間港の両排水溝を視察したあと、同工場尚和会館で千原専務ら工場側代表と会い、排水の処理状況などを質したが、そのさい調査団側は①熊大との対立感情を捨てて原因究明に協力してほしい②設備を急いでいる排水の浄化装置をなぜもっと以前につくらなかったか③会社も道義心を起こせなどと激しく追及した。調査団は来旅した一日から三日まで、熊本県、同県議会、工場の三者をそれぞれ叱責した形で調査の全日程を終わったが、解散に際して、漁民の窮状はわかった。打てるだけの手は政府に打たせる」と記者団に語った。



一百年後に起こった漁民と警察の衝突のあとに生じた工場側と調査団との対立感情は、調査団と工場側との交渉には、調査団と工場側のほか熊本県生省水俣食中毒部会

委員長（前熊大校長）ら熊大研究陣も出席した。

ビニール製造の場合に分けて説明、外国の同種工場敷設とくらべて、新日窒水俣工場の水銀量がむしろ少ないことを強調した。また一日の公聴会で熊本県立大工学部教授が公表した工場からの水銀流出量（同教授は工場のデータにもとづいたものとして昭和七年から現在まで約六日分の水銀が水俣湾に流されたとのべた）は単位がひとけた多すぎるのではないかといい、熊大の有機水銀説は酢酸二方法で疑問があることをそのべ

早急に対策を

松田調査
団長語る 特別立法要るまい



衆議院水俣病調査団の松田鉄蔵団長（自民）は調査団を率えた日、新日窒水俣工場

の尚和会館で記者団と会見①水俣病対策の特別立法がなくても、行政措置で問題に対処する②調査

団の意見をまとめて、早急に打てる手を打つべきだとして語った。（写真は松田団長）
○患者や漁民の窮状をみて涙が出た。みんなの意見をまとめて、早急にこの問題の解決に当たり打てるだけの手は政府に打たせる。各省のこれまでの責任ののれんの程度をめぐらせ、この問題に二丸となつて並たせよ。解決の道が必ずしもひらけると思ふ。
○特別立法は必要ないと思う。行政措置でいれる。水俣湾のドバの除去も、工場にやる気があれば政府が長期融資のあつせんもあるだろう。そのときは私もお手伝い

衆議院水俣病調査団の質問に答える西田新日窒水俣工場長（立つている人）「新日窒尚和会館で」

する。捕魚は簡単にできると思う。○工場はいま、千万円かけてつくっている浄化装置をなぜもっと早くつくらなかったのか。工場が病気とは関係ないとしても、点は会社の怠慢だ。新日窒のような工場が多ければ、水俣病全体の蔓延をもっと遅くしてはならぬ。工場の徳義心がのたまれる。○工場の漁民の行動は遺憾である。一部の積極的リーダーは正しい。漁民の味方ではないし、利益も守ってくれない。現在のリーダーが上京しても私は会わない。

た。

これに対し松田団長（自民）は
①工場が利根退及の立場で大学
を非難するのはやめてほしい②
予算不足で苦勞している熊大に
協力こそすべきだ③昨年制定さ
れた水質保全法は企業家の道義
心を信じ、また企業家の負担を重
くしない配慮からゆるやかな規
定にしてある。この法の精神に
応えてほしい④問題が重大化し
ているのに、吉岡社長が水俣市
に常駐して問題の解決に当たら
ないのは怠慢ではないかなどと
追及、また「放出水銀量は少な
いというが、海的环境を日本の
他工場と比較研究したのか（水
俣湾は二重湾で外海との湖の交
流が少ない）」と質した。

また提議員（社会）も「県民の
多くは工場が病気の責任者だと疑
っている。社会不安を除くために
も熊大と協力すべきだ」とのべ、
福永議員（自民）は「現在工場が
設置しようとしている廃水浄化装
置もすでに時期を失い、泥ナワで
はないか」と工場を攻撃した。

工場側ではこれらの意見と質問に
対し「熊大とは協力した。廃水
と海的环境との関係は国内の同種
工場三千一カ所全部は調べていな
い。調査分は後刻報告する」と答
えた。これで工場側との質疑を終
わり、調査団は同日午前十一時水
俣市で解散した。

▽左近邇盛省工機用水課長補佐の
話 廃水施設をみたが、これま
でのものは決して上等とはいえ

ない。松田団長の出身地である
北海道の諸工場よりかなり悪い
だろう。浄化装置が完成すれば
全国でも高いレベルの施設には
なる。